

三浦半島宮陵会だより

平成27年9月15日発行

発行者: 神奈川大学三浦半島宮陵会
事務局: 横須賀市浦賀丘2-8-19

企画・広報委員会
Tel: 046-843-0600

第20号

会長就任のご挨拶

神奈川大学三浦半島宮陵会会長 鈴木 和夫

平成27年総会・講演会・懇親会

～50人が参加し開催～



この度、平成27年度の三浦半島宮陵会の定時総会に於いて、会長職を務めることになりました、鈴木和夫(昭和46年法律卒)です。

古川前会長の宮陵会本部副会長就任に伴う突然の辞任、

総会一週間前の

役員会での突然の指名で、諸先輩方がいる中で「私で良いのか、出来るのか」自問自答しましたが、皆様からの強い後押しと励ましを受け自身も強い気持ちで会長職をお引き受けしました。

私と大学との関わりは深く、体育会準硬式野球部に所属し監督やコーチも含め30年間にわたります。現在も総監督としてサポートしております。

宮陵会体育振興委員会(旧組織)も副委員長を含め20年程務めました。そんな関係で、藤沢宮陵会の秋田会長はじめ、宮陵会本部の大場新会長、平能専務理事、手塚理事とは、長年の友であり、会員の中にも昔の同僚が多くおり心強い限りです。

さて、当三浦半島宮陵会も会員の皆様の支えやご協力のおかげで10年を迎えます。この間、古川前会長はじめ皆様で強固な基盤を築かれました。今後もこれらを継承してまいります。

私のポリシーは「明るく楽しく最善を尽くす」です。本学卒業生が和やかな雰囲気の中で、昔話や近況を語らい、輪を広げ、会員の増強と同好会の充実化を図りたいと考えます。そして、「ぶれない三浦半島宮陵会」を目指し、皆様のご支援ご協力を頂き頑張ります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

平成27年度定時総会が6月14日、50人が参加してセントラルホテル横須賀で開かれた。橘川俊忠神奈川大学名誉教授は「戦後70年—日本政治の進路を探る」と題した記念講演会で、戦後70年は、縄文から農耕の始まった弥生時代や人口移動の始まった南北朝時代にも匹敵する。日本の歴史上の3大変化ともいえる時代だ。問題は、このような巨大変化が人々に意識の変化をもたらしたが、その自覚がないことだと述べた。(講演要旨は別掲)



司会(総会担当)の砂川副会長(上)

続いて開かれた総会では、事業や収支報告など1～7号までの議案が提案され、いずれも承認された。

初代の三浦半島支部長(現在は三浦半島宮陵会

長と名称変更)の古川勝彦さんが宮陵会本部副会長に就任したことで会長職を辞任(三浦半島宮陵会顧問に就任)し、後任の新会長には横須賀市在住の鈴木和夫さん(平成46年法律卒)が就任した。

挨拶する古川前会長(下)

鈴木さんは大学との関係も深く、横須賀に本拠を置く金融機関に勤めるかわら母校の準硬式野球部監督を25年にわたり務めた。

ゴルフの腕前もプロ級(?)。来年創立10周年を迎える三浦半島宮陵会の記念行事に取り組むことが期待される。会計監査に堀越昌樹さん(平成62年法律卒)が新たに就任した。





クラリネット演奏の田原さん(上)

田原清彦さん(昭和49年貿易卒)のクラリネット演奏で懇親会も盛り上がり、堀越さんの指導で参加者全員による

校歌斉唱で終了した。

懇親会の興奮をそのまま持ち込んだ二次会には30人以上が参加し横須賀の夜をにぎわした。



校歌指導する堀越さん(上)

平成28年度の新年会は1月31日(日)を予定しています。詳細が決まり次第案内させていただきますので、よろしくお願ひします。(事務局長 原柳作)



参加者全員による記念撮影(セントラルホテル横須賀に於いて)

平成27年総会・講演会・懇親会

参加者の声を紹介します



西脇幸二さん(S53 貿易卒)・久根口昭二さん(S59 法律卒)・江尻二十三さん(S48 経済卒)「共に横須賀市青少年育成推進委員をしており、誘いま叔原力さん(昭和46 貿易卒)「初めて参加しましたが、お付き合いのあった方が多かったので、楽しかったです。今後とも宜しくお願いします」



中川六郎さん(昭和44 経済卒)・箕輪義夫さん(昭和63 貿易卒)「ゴルフの友人です。コンペもよろしくお願ひします」



川口好孝さん(昭和54 経済卒)「若い人もどんどん参加して、三浦半島宮陵会を盛り上げてください」



吉川晃子さん(機械4年)・中澤美佳さん(H27 経済卒)・嶋田順子さん(S47 短商卒)・上野愛子さん(H24 建築卒)「女性の参加者を増やしていきたいと思ひます。よろしくお願ひします」



小田進一さん（昭和32 電気工卒）「現在82 歳です。毎回参加するのが楽しみです。今後も元気で参加させていただきますので宜しくお願いします」



〈記念講演〉

戦後70年—日本政治の進路を探る
神奈川大学法学部名誉教授 橋川 俊忠 氏

講演要旨：デジユメと講演テープをマツメました。

（文責：塩塚定雄）

はじめに～日本人の誇りは？

ブラジルでの経験から～

私は10年ほど前に国際交流基金の要請で、ブラジルのサンパウロ大学日本文化研究所へ客員教授として3カ月間ほど招聘された。

国際交流基金主催の講演会があり、終了後70才くらいの日系移民の方から「戦後長い間、日本人・日系人としてどのように誇りを持って生きたいか悩み続けてきた。誇りを持つにはどうしたらいいのでしょうか」と尋ねられた。

私は「戦後60年間、大きな経済力を持った世界的な大国・日本が、1度も戦争をしていない。近代史の中でもきわめて稀有なことです。アメリカやロシア、イギリス、フランスなどの大国は戦争をやった。日本は、直接戦争に参加しなかったし、一度も武器を使わなかった」と答えた。

「なぜ、一度も武器を使わず戦争にも参加しなかったか」というと、第二次大戦の反省がある。反省していることを誇りとしたらどうですか」と話した。日系人の方から「そういう考え方もあるのですね」と感激をいただいた。

なぜ、このような話しをするか。われわれは戦後70年、ブラジルの日系人のように「どう誇りを持って生きたいか」といった受け止め方がなかったからです。ブラジルの日系人は、なぜこのようなことを真剣に考えるか。



ブラジル移民の歴史は古い。第二次大戦ではブラジルは連合国側に属し、日本は敵性国家や国民とされ、日系人は、非常に厳しい状態に置かれた。戦中・戦後も大変なプレッシャーを感じながら生きてきたからだと思います。この人たちから「いかなる誇りを持ち、日系人として歩いていけばいいか」と質問がでたわけで、この質問の重みを、きちんと受け止めなければいけないと強く感じた。

戦後70年の変化～①国際環境の変化～

戦後70年を国際環境の変化から（イ）敗戦と敗戦直後（ロ）冷戦開始と終了まで（ハ）冷戦終了後から今日まで一の三時期に区別して考えます。

敗戦と敗戦直後の2、3年は、国際連合が発足し世界的に戦争への反省期と捉えることができる。日本は憲法ができ、戦後の改革も行われた。

冷戦期は、帝国主義が衰退し植民地は解放されたが、体制間の対立ともいえる「代理戦争」が発生した。

冷戦の終結は、平和共存と核軍縮の進展という形でなく、社会主義圏の崩壊と民族主義の再台頭という形で現れた。これは、戦争前への回帰であって絶滅戦争へと向かう恐れがある。それでは、現在の国際環境の中でどうすればいいか。全地球的な規模で反省を強いられた敗戦直後の2、3年の国のあり方こそ、われわれの受け継ぐ遺産であると考ええる。

～②高度成長と生活や社会の変化～

この70年間、高度成長によって国民総生産と国民所得は増大し、産業構造やエネルギーの転換が行われ、生活水準の上昇や生活スタイルの変化がもたらされた。人口の都市への集中を促し、反面、地方の過疎化を招いた。公害や温暖化を含む環境問題の深刻化をもたらし、日本の社会を産業社会から情報社会に変化させ、少子高齢化で将来、人口減少社会となる。このような社会の変化は、網野善彦氏によれば、縄文から農耕の始まった弥生時代や人口移動の始まった南北韓鼎にも匹敵するもので、日本の歴史上の三大変化の一つと捉えられる。問題は、この巨大な変化が人々の意識にどのような変化をもたらしたかの自覚がないこと。

日本政治の現状～①現存する古い政治のイメージの問題

特に、第二次安倍政権で目立つ国家、権力中心の発想が気になります。経済中心主義、国益中心主義、パワーポリティックス論に立った国際関係観、形式化する民主主義、多数決主義の横行、効率主義の政治への浸透など、いずれも今の政治は気になります。

～②政治家と国民意識のずれ～

多様化する問題点を画一的に解決しようとする政治の矛盾や知的想像力の欠如が目立ちます。60%の国民が反対している議案に、衆議院の3分の2の議席を持つ与党が押し通そうとする姿は、象徴的です。

終わりにあたり

先生は終わりにあたり、太平洋戦争中は日本文学報告会の詩部会長に就任し、多くの戦争賛美詩を発表し、戦後、詩によって多くの若者を死に追いやった自責の念から、高村光太郎の発表した「暗愚小伝」の『真珠湾の日』を紹介した。その全文を掲載します。

<真珠湾の日>

宣戦布告よりもさきに聞いたのは/ハワイ辺で戦があつたといふことだ。/つひに太平洋で戦ふのだ。/詔勅をきいて身ふるひした。/この容易ならぬ瞬間に/私の頭脳はランビキ(蒸留器)にかけられ/昨日は遠い昔となり、/遠い昔が今となつた。/天皇あやふし。/ただこの一語が/私の一切を決定した。/子供の時のおぢいさんが、/父が母がそこに居た。/少年の日の家の雲霧が/部屋一ぱいに立ちこめた。/私の耳は祖先の声でみたされ、/陛下が、陛下がと/あげぐ意識は眩(めくるめ)いた。/身をすてるほか今はない。/陛下をまもらう。/詩をすてて詩を書かう。/記録を書かう。/同胞の荒廃が出来れば防がう。/私はその夜木星の大きく光る駒込台で/ただしんけんにさう思ひつめた/

三浦半島宮陵会同好会通信

世話人が紹介します

●ゴルフ会世話人:中川六郎(昭和44年経済卒)

メールアドレス: nakaroku@jcom.home.ne.jp



連絡先: 090-9003-2499
三浦半島宮陵会第27回オープンコンペは2015年7月17日(金)、葉山国際カンツリー倶楽部ダイヤモンドコースで開催されました。

台風の影響で、一時延期の情報も流しましたが影響が少ないとみて、予定通り開催し、お陰様で22名6組が1週間にとスタートしました。

しかし、3ホール付近で一時、強い雨に見舞われ、前3組からプレイを中止したいと要望がありました。主催世話

人としましては、「様子を見て欲しい」とお願いしましたが、1名を除いて前3組はプレイから離脱されました。

その後、雨も小降りになり後続3組はプレイを続けましたが、半数なのでコンペとしては中止としました。

今後も、気象状況や健康上の理由で、個人がプレイから離脱することはあると思いますが、コンペの継続については、あくまでも主催世話人の判断にお任せいただけますようお願い申し上げます。

私の5組の渡辺健氏は、前半47、後半45で回りました。HC22ですからNET70です。前回優勝者のNETは77ですから、渡辺氏の優勝の確率は相当高かったと思われる。渡辺氏には次回での活躍を期待します。

今回は、宮陵会メンバーの箕輪義夫氏が社長を務められている京急市原カントリークラブで11月20日に開催する予定です。多数のご参加をお願い申し上げます。



葉山国際カンツリー倶楽部において

●テニス会世話人:小池邦夫(昭和38年機械卒)

メールアドレス: kichiemu@mbj.nifty.com



連絡先: 090-8811-5079

毎月第3月曜日に、葉山町役場裏手のラベラ・テニスクラブで楽しんでいます。

常連は男性6名でしたが、最近若い女性が2名新たに加わり、賑やかになりました。

建築卒の上野さんは元バレー選手の由。長身からの高い返球が得意のようです。スペイン語卒の石倉さんは中学時代からテニスを始め、大学時代も同好会所属の由。彼女と大学時代同好会で一緒だった西脇さんの息子さんが7月の例会に特別参加し、我々には大いに刺激になりました。

恒例の夏季合宿を今年は、千葉県長生郡長生村の白子温泉で行ないました。海岸からの涼風が吹いているとはいえ、日中35度前後の猛暑の2日間の練習に耐えたのは、各自若い頃から鍛えてきた体力の賜物と感服しました。

また今年もテニスに好適なシーズンが巡ってきました。黄色のボールを一度打ってみたい方、大歓迎です。ぜひ山中の静かなテニスコートにお出かけください。



葉山のラベラ・テニスクラブに於いて

●歩こう会世話人:若林秀明(昭和39年経済卒)
メールアドレス:w-hideaki@mvd.biglobe.ne.jp



連絡先:090-3220-1479
歩こう会は、このところ鎌倉を中心に実施してきましたので、今年には横須賀方面で遊覧船で史跡巡り等を検討しました。

ところが適当なコースを見つけることができず、再度鎌倉の天園ハイキングコースの紅葉を觀賞することにしました。時期は11月下旬頃になりたいと思います。

なお、具体的には後日、会員の皆様にはハガキでご案内いたしますので、皆様お誘いのうえご参集ください。

●つり会世話人:塩塚定雄(昭和48年貿易卒)
メールアドレス:s.shiozuka@aria.ocn.ne.jp



連絡先:090-5581-1043
休会中でしたが、この度、清水さんの後を受け、世話人になりました。

早速ですが下記のとおり、釣

り大会を葉山の小池さんの親戚の船宿で企画しましたので、会員に関わらず多くの皆様の参加をお待ちしています。

期日:10月9日(金)5時30分集合完了・6時出船
船宿および集合場所:「与兵衛丸(よへいまる)」葉山あぶすり港 JR 逗子よりバス停登習(あぶすり)下車 (バスはまだ走っていません。駐車場あり、乗り合わせで)
つり物:アジまたはヤリイカ

費用等:乗船料1人9,500円(乗合、5人以上集まれば仕立て料金で割安に。その分で景品の用意等を考慮中)、貸竿・リールセット500円、仕掛けはアジであればサービス(イカは800円)、氷300円、沖上がりは13時ですの



で昼食・飲物は各自用意。
申込み:9月30日迄に世話人まで
詳細は与兵衛丸のホームページで!

〈だより創刊20号を記念して〉 三浦半島支部設立時の思い出 鈴木 稔(昭和44年経済卒)



神奈川大学三浦半島宮陵会(旧宮陵会三浦半島支部)が誕生してから9年が経過し、会報発行も20号に達するなど順調な歩みを示しており、設立準備に携わった一人として感慨深いものがあります。

このたび会報編集責任者の塩塚定雄さんより、創刊当時のことや私が担当していた業務について寄稿してくださいとの依頼がありましたので報告させていただきます。

平成17年11月、ふとした機会から知り合いになった古川さん、砂川さん、田中さん(故人)とともに宮陵会支部が無いこの地域に、支部を立ち上げようと計画し、私が事務方を担当することになりました。

支部設立準備会、設立委員会を経て平成18年6月24日、母校神奈川大学にて開催した「設立総会」に辿り着くまでの道のりは決して平坦ではありませんでした。当時の設立委員会委員・宮陵会本部役員の皆様の支援、ご協力に改めて御礼申し上げます。

支部設立準備会から設立総会までの工程は、今から24年前の平成3年、JA神奈川県信連から県農協中央会合併推進部に出向し習得した手法を応用しました。当時県内には市・町ごとに総合農協が38あり、県農協大会で農協合併推進が決議され県農協中央会内に合併推進部を新設、各農協連合会から職員が派遣されました。部内の検討会で合併基本構想を策定し、最終的には県下農協を7つに集約することが正式機関で決定承認された。職員は担当地域に張

り付き、昼夜農協合併の推進に汗を流した結果、現在は未合併農協を含めた総合農協は13に減少している。

支部設立当時の担当は、事務局長兼会計と会報編集責任者の三役を担いました。平成16年3月、60歳で定年を迎え自由な時間が取れるようになったことから引き受けた次第です。

一番苦労したのは、「三浦半島支部だより」の発行でした。30歳頃に労働組合で「神農協連労」という機関紙(タブロイド版・印刷は神奈川新聞社)を発行した経験から業者に印刷を依頼するかなと考えましたが、財政的に無理と判断。神大バスケットボール部OB会事務局長の塩塚さんがパソコンで会報を作製していることを知りアドバイスを受けました。後日「一太郎」という日本語ワープロソフトを購入し、平成18年10月「三浦半島支部だより」創刊号を発行、平成22年3月発行の第9号まで担当しましたが、難病患者(妻)の介護に専念するため、同年6月役職を辞任させていただきました。

つり姿の清水英樹さんを偲んで

砂川 正夫 (昭和44年経済卒)



本年3月に、残念ながら若くして逝去されました清水英樹さんとは、三浦半島宮陵会のつり部会を設立しました。

つり部会と言っても清水さん、塩塚さん、砂川の3名で、これからメンバー増強を計る

過程でしたので、残念でなりません。

清水さんは、神大の職員として、経理課や学生課、校友課で長年勤務され、本三浦半島宮陵会にも幹事としてご活躍されました。また、釣りが趣味で、つり部会長となっていました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

久里浜の黒川本店は、神大卒業生が経営していると言う事で、清水さんが常連としている釣り宿です。

2年前に五目釣りに行った時、釣り宿にある、(葬儀の祭壇にもかかげてありましたが)清水さんが釣り上げた大型の鯛の魚拓を拝見いたしました。釣り上げた当時、スポーツ新聞にも掲載されたそうです。その時に清水さん、塩塚さんより、つりの真髓をご教授頂きました。

私も小学生の時よりつりに興味を持ち、ハゼ釣りから始めて30年前頃にイナダ釣りにはまってしまい、毎年9

~11月頃、月7~8回を10年ぐらい続けました。最初の頃は、市販の釣竿を利用していましたが、馴染みの飲み屋の店主の影響で釣竿作りを覚え、自作の釣竿で周りの釣り人に見せびらかしながら釣りを楽しんでおりました。はじめの頃は竹を買ってきて作りましたが、しまいには自宅の庭に“ホテイチク”を植え、生育3年物を2年乾燥させ、竹の曲がりを直し、補強糸を巻き、ガイドをつけ、漆10回塗りで、仕上げ工程1本3か月を掛け製作しました。1番材料で高かったのは“カワハギ”の釣竿で印籠継ぎ、穂先はクジラのひげを用い、値段が3万円ぐらいする。市販の完成品でも数十万するのがざらにあります。穂先はガラスの破片で丸みをつけ、尖圭に削り工程をふみ最終段階に池で“さっき調子”をあわせ完成となる。現役の頃、夜遅く飲んで帰ってきて漆を塗り、朝会社出勤前に塗るといふ神がかり的熱心さで一生懸命作りました。ここ数年、お酒の好きな某教授と知り合い、呑んで語ってテニスに頑張っていますので釣竿作りからは遠ざかっています。

清水さんの釣り姿を思い浮かべながら、つり部会員を増やしたいと思っております。ご冥福をお祈りいたします。

大学の現状について~総会挨拶より~

神奈川大学史料編集室長 池原 治 氏

① 将来構想の推進について

本学では、創立80周年を機に策定した「学校法人神奈川大学将来構想」を実現するため、「将来構想第一期中期実行計画」に基



づき、各種施策に取り組んでまいりました。今年度は、引き続き同計画に掲げる諸施策を実施するとともに、平成28年度からの「第二期中期実行計画」を策定し、創立100周年に向け、さらに魅力ある学園づくりに努めてまいります。平成27年度は、次の2点を重点項目としています。

(1) 横浜キャンパスマスタープランの推進

本学国際化推進の中心的な施設として、9月末竣工にむけて国際センター棟の建設をすすめています。また、宮陵会館(2019年竣工予定)、12号館(工学部実験)、13号館(体育館)などの建設計画にも着手してまいります。

② 新教育組織設置等の検討

グローバル化が進展する社会において、積極的に挑戦し活躍できる人材の育成を図ることを目的として、競争力のある新たな学部の設置に向け、新教育組織設置等検討委員会を設置し、具体的に検討を進めています。

② 神奈川大学大学院法務研究科（法科大学院）の学生募集停止について

既に新聞紙上でご存知かと思いますが、この度、大学院法務研究科（法科大学院）法務専攻の、2016年度以降の学生募集を停止することを決定いたしました。本学法科大学院は、地域に根ざして活躍する法曹の養成をめざし、2004年4月に開設し、以来、46名の司法試験合格者を輩出してまいりました。（途中省略）

本学は開設した2004年度は50名の定員に対し865名が志願し50名が入学しましたが、2015年度は志願者22名、入学者5名と、定員割れの厳しい状況が続いておりました。カリキュラムや教育方法の改善、入学試験制度の改革等、諸施策を講じてまいりましたが、現在の法科大学院全体の情勢から、苦渋の決断ではありますが、2016年度以降の学生募集の停止を決定いたしました。

③ 入試結果及び入学人数

今年度の学部志願者総数は28,191名となり、昨年度の29,915名と比べて1,724名、率にして5.8%の減少となりました。

これまでで最も志願者が少なかった2005年度の28,319名をさらに128名下回る志願者となりました。前年の志願者と比較すると、高い高校ランクからの志願者の減少が目立つなどの傾向がみられますが、さらに詳細な分析を行っていきたいと考えています。

2015年度入学者は、学部4,341名、大学院171名、法務研究科6名となりました。なお学部給費生として21名が入学しました。

④ 卒業生子弟・子女入試制度について

2012年度の入試より始めた卒業生子弟・子女入試制度ですが、今年度は34名が志願し、28名が合格しました。今年度の試験日は11月23日（日） 理学部・工学部のみ11月16日（日）、出願期間は10月27日（月）～10月31日（金）。

⑤ 理事長の就任について

平成26年9月23日（火・祝）に新理事会を開催し、前常務理事の正野幸延（まさの ゆきのぶ）を新理事長として選任いたしました。

また、同日、常務理事に小林孝吉（事務局長）、吉井蒼生夫（法学部教授・前常務理事）を選任いたしました。

新理事会の任期は、平成26年9月23日から平成29年9月22日までの3年間です。

⑥ 神奈川大学は引き続き「AA/安定的」の格付を取得しました。



横浜C1号館

⑦ 在籍学生数

⑧ 就職状況について

非常に厳しい就職状況が続いておりましたが、ここ数年就職環境は回復の兆しをみせております。

2015年3月学部卒業者の就職率ですが、就職希望者に対する就職者の割合は、全学部で95.4%と昨年の92.1%を上回りました。

就職課の支援強化や限定的ではありますが景気回復が就職率を上げる結果となったと思います。

⑨ 米田吉盛教育奨学金の状況について

⑩ KU東北ボランティア駅伝について

⑪ 課外活動について

（⑥、⑦、⑨～⑪）は紙面の関係で割愛しました

最後になりましたが、大学は厳しい環境下に置かれていますが、学生達は多方面に活躍をしております。先輩方におかれましても更なるご理解とご支援をお願いします。

また、本日お集まりの皆様と、三浦半島宮陵会の益々のご発展を祈念し、ご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

HP(ホームページ)の紹介



只今のアクセス件数は5,640件です。

現在会員からの便りでは小池邦夫さんから頂いた、俳句と切り絵が掲載されています。『病越え 古希を越えたり 大花火（たまた

ま今年も妻の誕生日が豆子の花火大会の日でした。打ち上げ場所が拙宅の真ん前なので、彼女は大喜びで雨中最後まで観ていました。鳥居は葉山の名島から借用しました。』とのコメントが。

ほのほのとした感じが伝わってきますね。皆さんもお便りをお願いします。(広報担当：塩塚定雄)

会費納入のお願い

年会費の振込をお願いします。本年度分迄の未納者には郵便の「払込取扱票」を同封しました(氏名は未記載です)。振替手数料は支部で負担いたします。

◎郵便振替受入口座：久里浜支店

00290-5-95815 神奈川大学三浦半島宮陵会

◎横浜銀行口座：久里浜支店 普通預金

1747984 神奈川大学三浦半島宮陵会

●年会費は年間3千円、4年間前納は1万円です。

75歳以上の会員は1万円納付で永久会員です。

※神奈川大学三浦半島宮陵会(当地域組織)の活動は、年会費で運営しています。宮陵会本部の会費とは異なりますので、ご注意ください。

(会計担当：若林秀明)

年会費納入状況(平成27年8月31日現在)

〔平成27年度分まで納入済〕

(鎌倉) 川瀬 元夫、小田 進一、山岸 一輔、井口 淳

(逗子) 長澤 良成

(葉山) 米田 光男、小池 邦夫

(横須賀) 南雲 忠男、石井 一男、塚田 尚、菊地 武、篠原 久恒、伊藤 文保、市川 国男、奥野 晶洋、久保田宣彦、金野 義勝、名取美佐男、相原 充、鈴木 和夫、島崎 和久、伊澤 隆雄、江尻二十三、鳥海 洋義、鈴木 三郎

鈴木 伸夫、西脇 幸二、二井美恵子、川口 好孝、久根口昭二、堀越 昌樹、箕輪 義夫、田中 弘、寺西 厚、高橋 圓、浜村 朋武

(三浦) 源代 价克、塩谷 宏之

〔平成28年度分まで納入済〕

(鎌倉) 小永井 潔

(逗子) 青木 猛

(横須賀) 大倉 國光、芝崎 元晴、霧田 俊秀、武井 利徳、青山 隆一、永野 茂、石渡 卓、長島 保雄

〔平成29年度分まで納入済〕

(鎌倉) 若林 秀明、石井 和行、古川 勝彦

(逗子) 岸本 光瑞、深津 敏夫

(横須賀) 落 勝廣、結城 康雄、長谷川征勝、

金井 昌孝、熊澤 勝喜、砂川 正夫、

森下 守久、鈴木 稔、嶋田 晃、

塩塚 定雄、舟崎 学志、渡邊 健、

内藤 正久、佐久間克己、工藤 真也

(三浦) 石渡 大輔、原 柳作

〔平成30年度分まで納入済〕

(鎌倉) 矢澤 基一

(横須賀) 佐々木修蔵、嶋田 順子、松岡 和行、

三縄 義和

〔永久会員として納入済〕

(横須賀) 八嶋 政臣、中山 廣男

合計：77名

～編集後記～

会報20号をお届けいたします。本号では、6月14日に開催された三浦半島宮陵会・総会の模様を掲載させていただきました。同時に開催された記念講演会では戦後70年ということで、神奈川大学法学部名誉教授の橋川俊忠先生に「戦後70年・日本政治の進路を探る」と題して講演していただきました。「今後の私たち日本人としての生き方」の参考になったような気がします。

本誌は創刊より10年、20号を本号で重ねます。創刊時に携わっていただいた鈴木稔(前事務局長)さんに、当時の事を書いていただきました。御礼を申し上げます。

『暑さ寒さも彼岸まで』といいますが、今年の夏は、雨もほとんど降らず、暑い日が続きました。体調を崩された方もいるのではないのでしょうか。

私自身今年の夏は、毎日ではありませんが昨年までとは違い、日中30度をこえるクーラーのない環境で働きました。そうしたあい間での、本誌の編集作業となりましたが、時間の経過と共に薄れる記憶を辿りながら、やっと纏めることが出来ました。ご協力いただきました皆様にご感謝いたします。

彼岸も近づき、やっと過ごしやすい日常が戻ってきました。ご自愛ください。(塩塚)